

## 実践報告

# 社会福祉領域における在学生のキャリア形成支援を目的とした 研修会実践報告

長谷川武史<sup>1)\*</sup> 江連 崇<sup>1)</sup> 藤木聖子<sup>2)</sup> 尾之内謙一<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科 <sup>2)</sup>NPO 法人南宗谷ひだまりの会

キーワード：キャリア形成支援 共生社会実現 学生と専門職の交流

## 1. はじめに

本実践報告は、福祉領域への就職を志向する学生を中心としたキャリア形成支援を目的とした研修会の実施報告である。社会福祉学科の学生が社会福祉士および精神保健福祉士の両国家資格の取得を目指していく際、これらの資格保持が実践上いかに必要であるのかという目的意識が重要となる。本研修会では、①今後の社会で求められる社会福祉の専門性について本実践事業を通して把握し、学生の早期のキャリア形成につなげていくこと、②現在の道北地域および先駆的な実践例における共生社会実現への取組みを通して、地域理解を促進すること、③道北地域の福祉専門職者の研修および交流の機会を作ることで道北地域内のネットワークを高めていくこと、これらの3つを目的とした研修事業として設定した。

## 2. 事業概要

本実践事業は、道北圏域若手福祉従事者研修ネットワーク(以下、若手ネットワーク)が主催する「第10回道北圏域若手福祉従事者ネットワーク研修会」との共催として2017(H29)年10月7日に実施した。若手ネットワークは、道北地域における様々な実践領域で勤務する専門職者と福祉専門職を志向する学生に対して研修・教育・交流の場を提供し、相互交流を図っていく場として2012(H24)年から活動を行っており、本実践事業の目的とも共通性があり共催という形で実施した。近年は名寄市立大学と旭川大学において年に1回ずつの開催となっている。今回の研修会は、学生、一般、登壇者等を含め総勢81名での実施となった。学生の参加のうち1年生は全員が「ソーシャルワーク演習Ⅱ」の講義の一環として参加した。

なお、今回の研修会テーマは、「地域を『活かす』、地域で『生きる』」とした。現在、国や厚生労働省が進める「新福祉ビジョン」や「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部<sup>1)</sup>では、小地域単位での地域包括ケア、地域共生社会の実現が今後の社会の変化に合わせた仕組みとして提案されている。共生社会の中で中心的役割を期待されるソーシャルワーカーには、その環境作りとしての関係者との連携・調整や社会資源開発を通して地域作りに参加していくため



写真1 基調講演の様子



写真2 シンポジウムの様子

\*責任著者 E-mail:t-hasegawa@nayoro.ac.jp

の高い専門性が求められている。そこで、「1. はじめに」で挙げた3つの目的を踏まえた、以下の2部構成のプログラムとした。

第1部では共生型の地域づくりを行っている実践者の報告として増富地域再生協議会「増富BASE」の山田修氏を招き、基調講演「中山間地域における地域活性化の取り組み」というテーマのもと、山梨県北杜市須玉町増富地区を拠点にした地域資源を活用した都市と農村の共生対流による地域活性化を図るための活動について報告をいただいた。一から信頼関係を構築していくために必要なことや、地域内資源だけでは集落の維持が難しい現状において、住民の協力を得ながら外部の人や物との交流を図り資源を活用していく方法について、これまでの取り組みから得られた貴重な知見を提示いただいた。

第2部では、シンポジウム「道北地域における共生社会実現に向けた『いま』と『これから』」というテーマのもと、シンポジストとして道北地域で活躍する社会福祉領域の若手の実践者および研究者を招き、各自の現在の取り組みから今後の地域共生社会の発展に必要な視点を紹介いただいた。今回のシンポジストは以下の通りである。

(シンポジスト)

- ・小笠原 志朗 氏 (社会福祉法人名寄市社会福祉協議会)
- ・鎌田 工 氏 (社会福祉法人サロベツ福祉会 サロベツマイハート)
- ・藤木 聖子 (NPO 法人 南宗谷ひだまりの会)
- ・高田 裕斗 氏 (社会福祉法人 当麻かたるべの森)
- ・江連 崇 (名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科)

(コーディネーター)

- ・長谷川 武史 (名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科)

名寄市社会福祉協議会の小笠原氏からは、共生社会実現へ向けて現在社会福祉協議会で実践している多分野・多世代地域活動拠点「ここほっと」での活動やパラスポーツ啓発に関する取り組みについて、サロベツマイハートの鎌田氏からは、地域産業である酪農を活用したサービス利用者の社会交流や就労支援実践に関して、藤木氏からは、地域住民との交流による共生社会実現への取り組みやアール・ブリュット\*によるサービス利用者と地域社会との関わりについて、当麻かたるべの森の高田氏からは、これまでの法人と地域との交流における共生社会の基礎を作っていく実践について報告いただいた。休憩の後、最後に名寄市立大学の江連氏からは、共生社会を考えるうえでの専門職者の重要性について報告いただいた。

### 3. アンケート結果

研修会終了後、アンケートを実施した。基本属性は表1の通りであり、回答者として学生が多く、一般参加者の回収率が低かった。表2は研修全体の感想を示している。概ね研修内容に肯定的な感想が多く寄せられており、各プログラムの評価についての詳細は以下に述べる。

\* アール・ブリュットとは、既存の美術や文化潮流とは無縁の文脈によって制作された芸術活動のことである。直訳すると「生の芸術」となる。創作活動をする者の属性にとらわれない、純粹で自由な創意による芸術活動を指す。

表1アンケート回答者基本属性(n=50)

年代		属性		
10代	39	学 生	1年	38
20代	10		2年	0
30代	0		3年	4
40代	0		4年	0
50代	1	一 般	福祉高齢	0
			障がい	4
			児童	0
			教育	0
			その他	1
		無回答		3

表2 研修会全体の感想(複数回答)

参考、学びになった	40
もっと講師の方々の話を聴きたい	14
仕事(学業)に意欲的に取り組む気になった	11
福祉に対し前向きなイメージを持てた	9
福祉の仕事を頑張りたいと思えた	7
福祉の仕事は大変そうだと感じた	7
福祉の仕事に希望が見出せた	7
研修内容が難しかった	3
学び得たものは少なかった	0
現場職員の頑張りが励みになった	0

### 1) 第1部の基調講演に関して

基調講演「中山間地域における地域活性化の取り組み」に関する感想として、「良かった47名」、「普通3名」、「不満0名」という結果になった。

(自由記述抜粋)

- ・山田さんの実体験を元に「ハタラク」「ダレラク」を学ぶことができた。増富地域の高齢者の増加など支える面での問題について理解できました。山間部にあるならではの問題や対策についてももう少し理解したいと感じました。
- ・地元にも合併をした町であり田舎であるため恩返しの意欲が高まったから。
- ・実際に体験・経験してきたことを通じて感じたことをお話ししてくださったので、他人事には思えないなど感じた。自分も機会があれば、そういう場所に行ってみたいと思った。
- ・限界集落にあまり良いイメージを持っていなかったが、話を聞くにあたり、今までのイメージが変わりました。
- ・増富はとても素敵な街だと感じました。謙虚な心を持って、人のために働きたいと思いました。
- ・現代社会で働く人たちの中には何のために働くかがわからないまま仕事をしているひとがいると思う。山田さんのように田舎で息抜きをしてそこで暮らす人々と両方にとって良い道があるのだと思えた。自分の地元でも活かせると感じる事ができた。(その他、39件)

自由記述の意見として、学生からの意見としては大学の講義内で知ることのできない限界集落とされる地域の実情を知ったことに対する感想が多くあげられていた。

### 2) 第2部シンポジウム

シンポジウム「道北地域における共生社会実現に向けた『いま』と『これから』」に関する感想として、「良かった43名」、「普通6名」、「不満1名」という結果になった。

(自由記述抜粋)

- ・障がい者について学びを、シンポジウムを通じて実践現場の話を聞き、教科書にはないリアルな取り組みを知ることができた。
- ・福祉の仕事の根本は、障がい者の方々が住みやすい地域を作ることではあるが、そのために様々な取り組みを行っていて、仕事の幅が増えたように思ったから。

- ・それぞれの地域での活動を見ることができて、勉強になったし、それぞれの良いところがたくさんあって将来の自分の目指している職業の参考になりました。
- ・色々なお話の仕事聞いて、もっと色々未来について考えてみようと思いました。頭が少し柔軟になった感じがします。
- ・これからに関する話があまり展開されていなかったように思います。枝幸の生の芸術、自分も絵を描くので興味があります。機会があればぜひ見たいです。
- ・話が駆け足だった。 (その他、37件)

シンポジウムの感想としてほとんどの回答者が「良かった」と答えており、参加者への満足度は一定程度高かったと考えられる。

### 3) 研修会全体に関する課題や改善点

研修会全体への課題および改善点に関して、自由記述で解答してもらった。

(自由記述抜粋)

- ・(シンポジウムに関して)障害施設の方が多く、高齢分野や行政分野の方もいるとよかったのではないかと思います。
- ・施設概要や実践内容についてももう少しお話を聞きたかったです。
- ・時間配分の考慮 (その他、6件)

特に第2部のシンポジウムへの意見に関してあげられた。シンポジウムの設定時間を短く設定しており、各シンポジストの報告時間を十分取ることができなかった。また、登壇者についても上記自由記述に挙げられているように領域に偏りがあったため、シンポジウムの趣旨を十分展開できなかった可能性が考えられる。今回挙げられた意見を元に、研修会の展開方法を今後検討していきたい。

### 4) 将来の進路への参考

主に学生を対象とした質問項目であったが「将来の進路への参考になったか」について、「大変役に立った25名」「やや役に立った15名」「あまり役に立たなかった1名」「まったく役に立たなかった0名」という結果になった。

(自由記述抜粋)

- ・福祉の現場で働いている人がどのようなことをしているのか知れたから。
- ・地域分野に興味があるので大変参考になりました。また閉鎖的な支援ではなく、地域に開けた支援を行うことが大事なことがわかりました
- ・自分が知らなかった情報だらけで少し将来につながった気がしたため
- ・将来、自分自身が地域とどうつながりを持っていくべきか学べました。 (その他、20件)

今回の学生参加者の多くは1年生であったため、福祉領域に関する情報も講義内の話題が多くを占めていたと考えられる。その中で、自分達がこれから目指す福祉実践現場で活躍する専門職者の声を聞くことが出来たことが将来への参考になったと考えられる。

## 4. おわりに

本稿では、学生の早期のキャリア形成、共生社会に関する学生理解の促進、道北の専門職者と学生の交流を目的とした研修会の概要とその評価について報告した。アンケート結果を見ると、参加した学生に対しては、一定のキャリア形成支援効果があったと考えられる。しかし昨年度からの課題(長谷川ほか 2017)でもあったが、学生の参加人数に比べ一般参加者としての福祉専門職者は少なく、福祉専門職者の参加者数を増や

していくことが継続的な課題となった。今回得られたことを踏まえ、次年度以降の事業実施につなげていきたい。

本学社会福祉学科における社会福祉士および精神保健福祉士養成教育において、その養成教育上、定められたカリキュラムだけではなく、本事業のように地域内で活躍する福祉専門職者の実践談や福祉領域を体験する機会を提供することが、共生社会において求められる福祉専門職者の形成にも有効であると考えられる。学生支援という面だけではなく、道北地域における高度な福祉専門職者の養成に資する機会として今後も本実践事業を発展継続させていきたい。

## 資料 研修会チラシ



第10回 道北圏域若手福祉従事者ネットワーク研修会

### 地域を「活かす」、地域で「生きる」

と き：H29年10月7日（土）13:00～16:25  
ところ：名寄市立大学（名寄市西3条北8丁目）  
図書館棟1階 大講義室 ※例年と会場が異なります

**参加費無料**

**プログラム**

13:00 開会

13:15【第1部】基調講演（90分）  
『中山間地域における地域活性化の取り組み』  
講師 山田 修 氏（増富地域再生協議会 増富BASE）

14:45 休憩（10分）

14:55【第2部】シンポジウム（105分 途中10分休憩有）  
『道北地域における共生社会実現に向けた「いま」と「これから」』  
シンポジスト  
・小笠原 志朗 氏（名寄市社会福祉協議会 地域支援係長）  
・鎌田 工 氏（社会福祉法人サロベツ福祉会 サロベツマイハート）  
・藤木 聖子 氏（NPO法人 南宗谷ひだまりの会）  
・江連 崇 氏（名寄市立大学 保健福祉学部 社会福祉学科 助教）  
・高田 裕斗 氏（社会福祉法人 当麻かたるへの森）  
コーディネーター  
・長谷川 武史 氏（名寄市立大学 保健福祉学部社会福祉学科 講師）

16:40 閉会

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ ◆お申込み・お問い合わせ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

・申込用紙（裏面）をFAXもしくは、必要事項をE-mailにて事務局へ申し込み願います。

**事務局** 特定非営利活動法人 南宗谷ひだまりの会  
〒098-5825 枝幸郡枝幸町新栄町314番地1  
E-mail: esashiworkcenter@ah.wakwak.com  
TEL・FAX：0163-62-2773 【担当：尾之内 藤木】

10/3 (火) 締切

主催：道北圏域若手福祉従事者ネットワーク 共催：名寄市立大学

### 【付記】

本稿は、平成29年度名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター研究・実践支援による「社会福祉領域における在学生のキャリア形成支援を目的とした研修会事業の開発」における成果の一部である。

### 参考文献

- ・長谷川武史、江連 崇、藤木聖子、尾之内謙一(2017)「在学生のキャリア形成支援を中心とした社会福祉専門職者との交流事業報告」『地域と住民：コミュニティケア教育研究センター年報』1(35) 103-107 頁